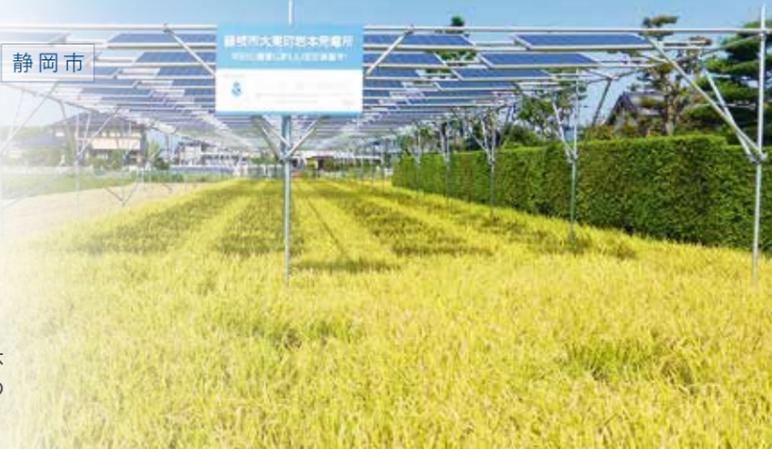


スマートブルー株式会社

地域と共生する 営農型ソーラーシェアリング

所在地 静岡市葵区千代2-17-23
事業内容 再生可能エネルギー、発電所運営、農地コンサルティング、不動産コンサルティング(雑種地、山林、原野、池沼、遊休地の有効利用)



概要 取組内容紹介

農地に架台を設置し太陽光発電を行うソーラーシェアリング。農業従事者の問題解決、また農地の有効利用促進のために、長期事業としてきちんと利益を生み出す仕組みを提案。



環境課題の解決 農業と売電事業を両立させるビジネスモデル

環境ビジネスとしての注目すべき着眼点

持続可能なエネルギーの供給を、農業とともに

地球環境の維持のために持続可能なエネルギーシステムの供給が求められる中、ソーラーシェアリングは2013年3月の国の法整備により設置が認められ、ここ数年で、急速に導入が進んでいる。

同社では農地の有効活用のニーズに応えるため、2013年、静岡市でソーラーシェアリング事業を開始した。以降、農業による収益を第一とし、利益を生み出す仕組みづくりのため、県内外の大学と産学共同研究を開始し、現在は、売電事業と農業のビジネスモデルを確立し、営農型発電のトップランナーとして取組を進めている。

ソーラーシェアリングを行うことで、架台など設備を二次利用し防虫ネットを設置することによる農作業の効率化や、太陽

光パネルが葉焼けや霜焼けを防ぐ効果が期待出来る。

一定の成果をあげている、ソーラーシェアリング

自分で農地を管理するのが難しいという地権者の課題に対して、その農地にソーラーシェアリングを設置して売電収入を得たい投資家、さらに発電した再エネを消費する需要家のマッチングを行っている。

地権者は農地の管理から解放され、投資家は売電収入が得られ、需要家は再エネの入手による企業価値の向上が図れる、三方よしの取り組みだ。安定した売電収入の確保、耕作放棄地の解消、農地の保全といった面で一定の成果が認められたことが、ソーラーシェアリングが急速に増加している要因となっている。

展望

地域の特性を生かした導入を

静岡市や浜松市の中山間地域などには平地が少なく小規模な土地が多いため集約が難しい。このような特性を持つエリアでもソーラーシェアリングは設置可能だ。地域と防災協定を結び、災害時に非常用電源として電気を使用できる防災拠点としての活用事例もある。

急速な普及をしている今だからこそ乱立させるのではなく、地域の特性を重視した地域と共生するソーラーシェアリングの導入が求められている。

同社では、発電した電気を農業利用するモデルを開始しており、上がり続けるエネルギーコストを抑えることで利益を高める取組となっている。

背景・地域課題 農地の有効利用法

農業が抱える問題は農家の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加、収入の減少など多岐にわたっている。農家の収入確保という点から、以前からの顧客であった農家から太陽光発電の相談を受けていた。2013年の法整備をきっかけに顧客のニーズに応える形でソーラーシェアリングに取り組み始めた。

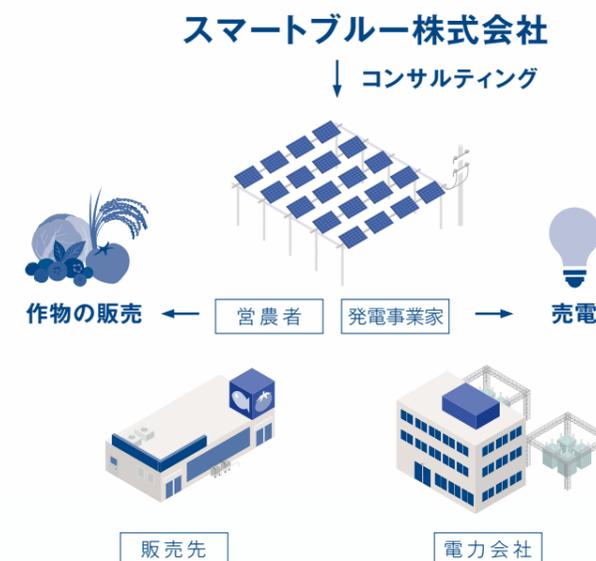
近年、環境事業への機運の高まりからSDGs、ESGに関心のある企業から農地を活用した事業としての問い合わせが増加した。これを契機に企業への営農及びソーラーシェアリングをパッケージとしたビジネスモデルの販売を開始した。



具体的な取組内容 高付加価値な農業と、発電の両立

同社では、日本独特の小さい農地にマッチしたソーラーシェアリングを開発した。ソーラーシェアリングの架台を利用してハウス栽培の環境を整え、作物の栽培環境をICT機器で24時間監視し、遠隔での操作も可能とした。ハウス内で高単価な作物を栽培することで農作業を効率化し、高付加価値な農業の実現を目指している。

最近では、水田の耕作放棄地の解消を目指し、ソーラーシェアリング下の水田で栽培が可能な、水稲に代わる高単価作物の開発を、栽培方法、収穫物の販路を含めて多角的に進めている。エネルギーと食の地産地消を目指していく。



今後の活動 地球も、企業も、持続可能であり続けるために

企業理念でもあり、ゴールでもある「スマートブルー」は「持続可能な地球」という意味。その実現のために企業としても持続可能な組織、人づくりを行い、それが地方創生のソリューションにつながっていく。そのビジョンのもとにチャレンジを続けています。エネルギー自給率をあげることで、農業の発展に寄与していくことを考えた取組を本気ですすめています。誰もがはじめられる農業の新しいカタチを提案し、耕作放棄地で悩む土地オーナーが安心して農地を貸し出すための仕組みを作り、土地の有効活用や地域の安全などを通じた「持続可能な循環型社会」の実現も私たちの目指すもの。

常にエネルギー業界の未来予想図を想い描き、持続可能なアイデアを社会と地球環境の間に見出し、大量生産、大量消費、大量廃棄の仕組みから脱却する社会づくりをすすめていきたいと考えています。

スマートブルー株式会社 代表取締役 塩原 太郎

